（3）忙しい活動

「1日のうちで、あなたが特に「忙しい」と感じる活動はどれですか。3つ選んでください。」として表3－1－3に示す18の活動を掲げた。中には1つしか選ばなかったり、12も選んだ者がいたため、指定通り3つが選ばれている票だけを分析対象とした。分析票数は1716票であった。表3－1－3は忙しいと判断された活動とその被選択率を、被選択率が高い順に示したものである。

保育士が「忙しい」と感じている活動の上位5つは、「食事（授乳を含む）の援助」、「排泄の援助」、「着脱の援助」、「連絡帳の記入など記録」、「保育中の掃除・片づけ」であった。中でも「食事（授乳を含む）の援助」は7割以上、「排泄の援助」は半数以上、「着脱の援助」も3割以上の保育士が忙しいと感じていた。これらの活動については、保育士の数に問題となると考えられる。これら3つの活動に共通しているのは、ほぼ全員が、ほぼ同じ時間に、同じことをする活動という点である。すべての子どもに平等にかかわる必要がある活動は忙しいのであろう。

一方、下位5つ活動は、「降園（所）後の掃除・片づけ」、「登園（所）前の掃除・片づけ」、「延長保育への引き継ぎ」、「午後の遊び」、「その他」であった。これらの活動は子どもの人数が少なかったり、子どもによってその内容が異なる活動である。なお、「おやつの援助」は6位であった。おやつは食事と異なり、比較的余裕があると考えられる。

表3－1－3　忙しい活動

活動	被選択数	割合
6．食事（授乳を含む）の援助	1297	75.6
9．排泄の援助	962	56.1
10．着脱の援助	654	38.1
13．連絡帳の記入など記録	379	22.1
16．保育中の掃除・片づけ	315	18.4
2．登園（所）時の子ども対応	288	16.8
4．午前の遊び	189	11.0
15．降園（所）時の保護者対応	184	10.7
11．清潔（沐浴、清拭等）面の援助	167	9.7
8．午睡の援助	165	9.6
3．登園（所）時の保護者対応	139	8.1
14．降園（所）時の子ども対応	107	6.2
7．おやつの援助	79	4.6
18．その他	77	4.5
5．午後の遊び	46	2.7
12．延長保育への引き継ぎ	44	2.6
1．登園（所）前の掃除・片づけ	31	1.8
17．降園（所）後の掃除・片づけ	25	1.5

（4）保育士不足・保育士過多

「あなたが、保育者がもっと多いほうがよいと感じる活動はありますか。」と尋ねて、「はい」か「いいえ」で答えてもらったところ、「はい」という回答は77.3%(1512人)であった。これらの保育士に、「そのように感じる活動のすべてに○をつけてください（複数回答可）。」として、表3－1－3と同じ活動を示した。各活動が選ばれた割合を、その被選択率の高い順に示したものが表3－1－4である。

保育士不足を感じる活動の上位5つは、「食事(授乳を含む)の援助」、「排泄の援助」、「着脱の援助」、「午前の遊び」、「保育中の掃除・片づけ」であった。「食事（授乳を含む）の援助」は過半数、「排泄の援助」と「着脱の援助」も3分の1以上の保育士が、「保育士がもっと多い方がよい」と感じていた。これらの活動は、保育士不足が深刻な結果を生むと考えられる。

なお、「午前の遊び」は、表3－1－3の上位5つに含まれていない。すなわち、忙しくはないが、保育士不足を感じる活動である。より充実したかかわりのために「保育士がもっと多い方がよい」と感じる活動なのであろう。

「保育をしていて、保育者がもっと少ない方がよいと感じる活動はありますか。」と尋ねて、「はい」か「いいえ」で答えてもらったところ、「はい」という回答は1.3%（25名）に過ぎなかった。保育士過多を感じている保育士はほとんどいないといえる。

表3－1－4　保育士不足を感じる活動

	被選択数	割合
6．食事（授乳を含む）の援助	1038	68.7
9．排泄の援助	800	52.9
10．着脱の援助	681	45.0
4．午前の遊び	448	29.6
16．保育中の掃除・片づけ	406	26.9
2．登園（所）時の子ども対応	365	24.1
11．清潔（沐浴、清拭等）面の援助	298	19.7
8．午睡の援助	286	18.9
15．降園（所）時の保護者対応	257	17.0
13．連絡帳の記入など記録	254	16.8
14．降園（所）時の子ども対応	227	15.0
3．登園（所）時の保護者対応	223	14.7
5．午後の遊び	213	14.1
7．おやつの援助	147	9.7
12．延長保育への引き継ぎ	104	6.9
18．その他	95	6.3
17．降園（所）後の掃除・片づけ	79	5.2
1．登園（所）前の掃除・片づけ	53	3.5

（5）保育者の数が多いことの影響

「1歳児の保育者の数が今より多くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか。」として、子どもに関する内容の 15 項目、保育士に関する内容の 20 項目について、「今よりも以下の文のようになると思われる」、「今と変わらないと思われる」、「むしろ以下の文とは逆の結果となると思われる」の3つから選んでもらった。

①子どもに対する影響

表3－1－5は、子どもに関する内容の 15 項目に対して、各選択肢が選ばれた割合を示したものである。選択肢が3つなので、ランダムに答えた場合は 33.3%になる。そこでこの値を期待値として、期待値と実測値との差の検定を行ったところ、すべての項目で有意差があった。特定の選択肢とそれ以外に分けて、同様の検定を行い、期待値よりも有意に大きな値はフォントを大きくし、有意に小さな値はフォントを小さくした。

「文のようになる」だけが有意に多かった項目は、「食事を楽しむことができる」、「清潔を保つ行動が増える」、「身体的活動がしやすい」「聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える」、「情緒が安定する」、「子どものかみつきが少なくなる」の6項目であった。「逆の結果となる」だけが有意に多かった項目は、「怪我が多くなる」の1項目であった。これら7項目については、保育者の数が今より多いことが子どもにとってプラス面に大きな影響を与えると考えられる。

一方、「変わらない」だけが有意に多かった項目は、「子どもがつかれにくくなる」と「子ども同士の関わりが多くなる」の2項目であった。これらの項目は保育者の数が多さに影響を受けにくい項目であるといえる。

表3－1－5　保育者の数が今より多くなることの子どもの行動に対する影響（%）

子どもについて	文のようになる	変わらない	逆の結果となる
1. 食事を楽しむことができる	73.9	24.8	1.3
2. 睡眠など適切な休息をとれる	43.4	55.7	1.0
3. 清潔を保つ行動が増える	67.4	31.7	0.8
4. 身体的活動がしやすい	74.3	24.4	1.3
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	73.6	25.5	0.9
6. 言葉（喃語を含む）を発しやすくなる	58.1	40.7	1.2
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	55.8	43.4	0.7
8. 情緒が安定する	77.8	20.4	1.8
9. 機嫌がよくなる	58.4	40.3	1.2
10. 集中して遊ぶようになる	49.8	47.4	2.8
11. 怪我が多くなる	4.5	22.6	72.9
12. 子どもが疲れにくくなる	14.9	78.2	6.9
13. 子ども同士のかかわりが多くなる	28.4	60.1	11.5
14. 子どものかみつきが少なくなる	70.8	25.7	3.5
15. 保育士への関わりを多く求める	51.8	41.2	7.0

②保育士に対する影響

表３－１－６は、保育士に関する内容の 20 項目に対して、各選択肢が選ばれた割合を示したものである。表３－１－５と同様の分析を行った。すなわち、ランダムに答えた場合の値（33.3%）を期待値として、期待値と実測値との差の検定を行ったところ、すべての項目で有意差があった。そこで特定の選択肢とそれ以外に分けて、同様の検定を行い、期待値よりも有意に大きな値はフォントを大きくし、有意に小さな値はフォントを小さくした。

「文のようになる」だけが有意に多かった項目は、「健康状態の把握がしやすい」、「スキンシップをとりやすい」、「排泄の援助がしやすい」、「食事の援助がしやすい」、「睡眠の援助がしやすい」、「清潔の援助がしやすい」、「着脱の援助がしやすい」、「遊びの援助がしやすい」、「玩具・遊具など物的環境を管理しやすい」、「安全管理をしやすい」、「保育の準備がしやすい」の 11 項目であった。先に述べた「忙しい活動」や「保育士不足を感じる活動」の上位項目がすべて含まれている。保育者の数が今より増えることで、忙しさや保育士不足が緩和されるといえる。

一方、「変わらない」だけが有意に多かった項目は、「保育士同士の会話がしやすい」と「温度湿度の管理がしやすい」の２項目であった。これらの項目は保育者の数が多さに影響を受けにくい項目であるといえる。

表３－１－６　保育者の数が今より多くなることの保育士の行動に対する影響（%）

保育士について	文のようになる	変わらない	逆の結果となる
1. 健康状態の把握がしやすい	70.9	26.3	2.8
2. スキンシップをとりやすい	83.7	14.5	1.8
3. 排泄の援助がしやすい	89.8	8.7	1.4
4. 食事の援助がしやすい	91.0	7.6	1.4
5. 睡眠の援助がしやすい	76.5	22.3	1.2
6. 清潔の援助がしやすい	83.3	15.7	1.0
7. 着脱の援助がしやすい	88.4	10.4	1.3
8. 遊びの援助がしやすい	83.9	14.8	1.3
9. 言葉かけがしやすい	61.1	37.3	1.6
10. 保育士同士の会話がしやすい	23.5	67.4	9.1
11. 温度湿度の管理がしやすい	30.2	68.6	1.2
12. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	67.6	31.2	1.2
13. 安全管理をしやすい	81.1	17.7	1.2
14. 保育士のストレスがたまらない	40.1	52.5	7.3
15. 保育士が疲れにくくなる	51.0	45.4	3.7
16. 保育士の口調が柔らかくなる	42.1	56.6	1.3
17. 保護者への対応がしやすい	58.6	38.4	3.0
18. 保育の準備がしやすい	84.4	14.6	1.0
19. 指導計画の立案がしやすい	44.8	52.1	3.1
20. 子育て支援の業務がしやすい	61.1	37.9	1.0

（6）保育者の数が少ないことの影響

「1歳児の保育者の数が今より少なくなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか。」として、先と同じ子どもに関する内容の 15 項目、保育士に関する内容の 20 項目について、「今よりも以下の文のようになると思われる」、「今と変わらないと思われる」、「むしろ以下の文とは逆の結果となると思われる」の3つから選んでもらった。

①子どもに対する影響

表3－1－7は、子どもに関する内容の 15 項目に対して、各選択肢が選ばれた割合を示したものである。同様の分析を行い、期待値と実測値との差をフォントの大きさで示した。

「文のようになる」だけが有意に多かった項目は、「怪我が多くなる」と「保育士へのかかわりを多く求める」の2項目であった。子どもの怪我の多さは、保育者の数に大きく関係するといえる。「保育士へのかかわりを多く求める」は、「保育者の数が今より多くなった場合」も「文のようになる」が有意に多かった。保育者の数の多少に関わらず、子どもは新しい場面で保育士へのかかわりを多く求めるのかもしれない。

「逆の結果となる」だけが有意に多かった項目は「食事を楽しむことができる」、「睡眠など適切な休息がとれる」、「清潔を保つ行動が増える」、「身体的活動がしやすい」、「聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える」、「情緒が安定する」、「機嫌が良くなる」、「子どものかみつきが少なくなる」の8項目であった。これら8項目については、保育者の数が今より少ないことが子どもにとってマイナスの影響を与えると考えられる。

「変わらない」だけが有意に多く選ばれた項目はなかった。

表3－1－7　保育者の数が今より少なくなることの子どもの行動に対する影響（%）

子どもについて	文のようになる	変わらない	逆の結果となる
1. 食事を楽しむことができる	1.2	16.3	82.5
2. 睡眠など適切な休息をとれる	1.2	32.9	65.9
3. 清潔を保つ行動が増える	1.3	20.5	78.2
4. 身体的活動がしやすい	1.6	18.2	80.2
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	1.2	24.8	74.0
6. 言葉（喃語を含む）を発しやすくなる	1.4	37.0	61.6
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	1.2	45.0	53.8
8. 情緒が安定する	1.4	13.4	85.2
9. 機嫌がよくなる	1.1	23.2	75.7
10. 集中して遊ぶようになる	2.7	36.0	61.4
11. 怪我が多くなる	69.2	11.2	19.5
12. 子どもが疲れにくくなる	6.3	54.2	39.5
13. 子ども同士のかかわりが多くなる	13.9	50.1	36.0
14. 子どものかみつきが少なくなる	8.6	16.3	75.1
15. 保育士への関わりを多く求める	43.2	28.7	28.2

②保育士に対する影響

表３－１－８は、保育士に関する内容の 20 項目に対して、各選択肢が選ばれた割合を示したものである。同様の分析を行い、期待値と実測値との差をフォントの大きさで示した。

「文のようになる」だけが有意に多かった項目はなかった。

「逆の結果となる」だけが有意に多かった項目は、「健康状態の把握がしやすい」、「スキンシップをとりやすい」、「排泄の援助がしやすい」、「食事の援助がしやすい」、「睡眠の援助がしやすい」、「清潔の援助がしやすい」、「着脱の援助がしやすい」、「遊びの援助がしやすい」、「言葉かけがしやすい」、「玩具・遊具など物的環境を管理しやすい」、「安全管理をしやすい」、「保育士のストレスがたまらない」、「保育士が疲れにくくなる」、「保育士の口調が柔らかくなる」、「保護者への対応がしやすい」、「保育の準備がしやすい」、「子育て支援の業務がしやすい」の 17 項目であった。保育者の数が今より少なくなることは、保育士の行動に多大な影響を与え、多くの業務に差し障りが出るといえる。

表３－１－８　保育者の数が今より少なくなることの保育士の行動に対する影響（%）

保育士について	文のようになる	変わらない	逆の結果となる
1. 健康状態の把握がしやすい	2.2	20.1	77.7
2. スキンシップをとりやすい	2.2	12.0	85.8
3. 排泄の援助がしやすい	1.5	5.1	93.3
4. 食事の援助がしやすい	1.5	4.6	94.0
5. 睡眠の援助がしやすい	1.2	14.0	84.8
6. 清潔の援助がしやすい	1.2	11.0	87.8
7. 着脱の援助がしやすい	1.4	6.3	92.4
8. 遊びの援助がしやすい	1.4	10.6	87.9
9. 言葉かけがしやすい	2.2	25.7	72.1
10. 保育士同士の会話がしやすい	5.1	50.5	44.4
11. 温度湿度の管理がしやすい	1.1	53.5	45.3
12. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	1.3	25.5	73.3
13. 安全管理をしやすい	1.7	14.0	84.4
14. 保育士のストレスがたまらない	4.0	29.6	66.4
15. 保育士が疲れにくくなる	4.3	20.1	75.6
16. 保育士の口調が柔らかくなる	1.7	34.5	63.8
17. 保護者への対応がしやすい	2.3	25.3	72.4
18. 保育の準備がしやすい	1.9	12.9	85.2
19. 指導計画の立案がしやすい	2.3	38.5	59.2
20. 子育て支援の業務がしやすい	1.4	25.8	72.8

（7） 1歳児担当保育者の適性人数

①調査時現在

「1歳児担当の保育者の人数について、あなたはどのようにお考えですか。」として、「今の人数がちょうどよい」、「今より多いほうがよい」、「今より少ない方がよい」の3つのうち1つを選んでもらった。その結果、「今の人数がちょうどよい」は 54.6%、「今より多いほうがよい」は 42.5%、「今より少ない方がよい」は 0.8%であった（この他に無回答が 2.1%）。過半数の保育士が「今の人数がちょうどよい」を選んでいた。

「今より多い方がよい」を選んだ者に、「具体的にどれぐらい多いほうがいいですか。」として、「今　　人のところあと　　人」と人数を書いてもらった。その結果を示したものが表3－1－9である。平均値を見ると、今、3人程度のところ、あと1人多い方がいいと答えていた。

②4月頃

調査時は 12 月くらいであり、1歳児クラスの子どもの多くは2歳になっている。これに対して4月頃の時点では2歳になっている子どもはほとんどいない。同じ子どもにかかわるにしても、1歳の頃の子どもは半年間で大きく変わる。そこで、「4月頃の1歳児担当の保育者の人数について、今（調査時）と比べてあなたはどのようにお考えですか。」として、「今の人数がちょうどよい」、「今より多いほうがよい」、「今より少ないほうがよい」の3つのうち1つを選んでもらった。その結果、「今の人数がちょうどよい」は 36.8%、「今より多いほうがよい」は 59.4%、「今より少ない方がよい」は 0.7%であった（この他に無回答が 3.1%）。6割近い保育士が「今より多い方がよい」を選んでいた。

「今より多い方がよい」を選んだ者に、「具体的にどれぐらい多いほうがいいですか。」として、「今　　人のところあと　　人」と人数を書いてもらった。その結果を示したものが表3－1－10 である。平均値を見ると、今、3人程度のところ、あと1人から2人多い方がいいと答えていた。4月にはあと1～2人、保育士が多い方がいいといえる。

③調査時現在と4月の比較

「保育士の人数についてあなたはどのようにお考えですか」という2つの設問に対する回答に対して3×3のχ^2検定を行ったところ、有意差があり、「今より多いほうがよい」は4月頃のほうが、「今の人数がちょうどよい」は調査時現在のほうが多かった。

表3－1－9　今の保育者の数と欲しい人数

	n	平均	標準偏差	最小値	最大値
今	781	3.1	1.9	0.5	20
あと	787	1.3	1.1	0.5	12

表3－1－10　4月と比べて欲しい人数

	n	平均	標準偏差	最小値	最大値
今	1080	3.2	1.9	0.5	25
あと	1093	1.5	1.1	0.5	10

2．2歳児クラスを担当する保育士による回答（C－2票）の分析

（1）回答者の内訳

1935 票の調査票が回収された。役割分担別の内訳はリーダーが 39.3%、サブリーダーが 21.2%、その他が 34.3%であり、無回答が 5.3%あった。主任（それに準ずる園長を補佐する立場の人）かどうかの問いに対しては、「はい」が 8.3%であった。雇用形態別に内訳をみると、常勤が 70.6%、非常勤（フルタイム）が 24.0%、非常勤（短時間）が 3.6%であった（他に無回答が 1.9%あり）。保育所の勤務年数の通算を尋ねたところ、表３－２－１のような分布であった。

これらの内訳から、２歳児クラスを担当する保育士の代表的な回答が分析できると推測できる。

（2）業務について

「あなたは、園内の業務のうち、次の事項にどのくらい時間をかけていますか」と尋ねて、時間数を書いてもらった。その平均値、標準偏差、最小値、最大値を示したものが表３－２－２である。１日のうち保育の準備、記録、指導計画の立案、掃除などの環境整備に費やす時間の合計は約３時間であると思われる。ただしこれらの業務に追われている保育士もいることが明らかになった。

表３－２－１　保育所勤務通算年数の分布

区分	割合
１年未満	8.8
１年以上５年未満	26.9
５年以上10年未満	23.3
10年以上20年未満	21.7
20年以上30年未満	11.3
30年以上	6.9
無回答	1.1

表３－２－２　業務にかける時間

業務	平均値	標準偏差	最小値	最大値
１日のうち				
保育の準備（教材準備や環境構成など）	0.81	0.60	0	9
記録	0.86	0.47	0	6
指導計画（日案など）の立案	0.73	0.69	0	8
掃除などの環境整備	0.74	0.42	0	6.5
１週間のうち				
特定のテーマに基づく会議	1.16	0.91	0	10
担当クラスでの会議	1.33	1.25	0	18
園全体での会議	1.37	0.92	0	7

（3）忙しい活動

「1日のうちで、あなたが特に「忙しい」と感じる活動はどれですか。3つ選んでください。」として表3－2－3に示す18の活動を掲げた。中には1つしか選ばなかったり、10も選んだ者がいたため、指定通り3つが選ばれている票だけを分析対象とした。分析票数は1659票であった。表3－2－3は忙しいと判断された活動とその被選択率を、被選択率が高い順に示したものである。

保育士が「忙しい」と感じている活動の上位5つは、「食事（授乳を含む）の援助」、「着脱の援助」、「排泄の援助」、「連絡帳の記入など記録」、「登園（所）時の子ども対応」であった。中でも「食事（授乳を含む）の援助」は5割以上、「着脱の援助」は4割以上、「排泄の援助」と「連絡帳の記入など記録」も3割以上の保育士が忙しいと感じていた。これらの活動については、保育士の数が問題となると考えられる。これら3つの活動に共通しているのは、ほぼ全員が、ほぼ同じ時間に、同じことをする活動という点である。すべての子どもに平等にかかわり、記録を作る必要がある活動は忙しいのであろう。

一方、下位5つ活動は、「登園（所）前の掃除・片づけ」、「おやつの援助」、「降園（所）後の掃除・片づけ」、「午後の遊び」、「延長保育への引き継ぎ」であった。これらの活動は子どもの人数が少なかったり、子どもによってその時間や内容が異なる活動である。そのため、比較的余裕があると考えられる。

表3－2－3　忙しい活動

	被選択数	割合
6．食事（授乳を含む）の援助	970	58.5
10．着脱の援助	680	41.0
9．排泄の援助	631	38.0
13．連絡帳の記入など記録	511	30.8
2．登園（所）時の子ども対応	410	24.7
16．保育中の掃除・片づけ	348	21.0
15．降園（所）時の保護者対応	263	15.9
4．午前の遊び	235	14.2
8．午睡の援助	204	12.3
3．登園（所）時の保護者対応	180	10.8
14．降園（所）時の子ども対応	129	7.8
11．清潔（沐浴、清拭等）面の援助	113	6.8
18．その他	86	5.2
12．延長保育への引き継ぎ	69	4.2
5．午後の遊び	41	2.5
17．降園（所）後の掃除・片づけ	39	2.4
7．おやつの援助	37	2.2
1．登園（所）前の掃除・片づけ	31	1.9

（4）保育士不足・保育士過多

「あなたが、保育者がもっと多いほうがよいと感じる活動はありますか。」と尋ねて、「はい」か「いいえ」で答えてもらったところ、「はい」という回答は64.3%(1245人)であった。これらの保育士に、「そのように感じる活動のすべてに○をつけてください（複数回答可)。」として、表３－２－３と同じ活動を示した。各活動が選ばれた割合を、その被選択率の高い順に示したものが表３－２－４である。

保育士不足を感じる活動の上位５つは、「食事(授乳を含む)の援助」、「着脱の援助」、「排泄の援助」、「午前の遊び」、「登園（所）時の子ども対応」であった。「食事（授乳を含む）の援助」は過半数、「着脱の援助」と「排泄の援助」も３分の１以上の保育士が、「保育士がもっと多い方がよい」と感じていた。これらの活動は、保育士不足が深刻な結果を生むと考えられる。

なお、「午前の遊び」は、表３－２－３の上位５つに含まれていない。すなわち、忙しくはないが、保育士不足を感じる活動である。より充実したかかわりのために「保育士がもっと多い方がよい」と感じる活動なのであろう。

「保育をしていて、保育者がもっと少ない方がよいと感じる活動はありますか。」と尋ねて、「はい」か「いいえ」で答えてもらったところ、「はい」という回答は 1.6%（31 名）に過ぎなかった。保育士過多を感じている保育士はほとんどいないといえる。

表３－２－４　保育士不足を感じる活動

	被選択数	割合
６．食事（授乳を含む）の援助	637	51.2
10．着脱の援助	484	38.9
９．排泄の援助	470	37.8
４．午前の遊び	356	28.6
２．登園（所）時の子ども対応	353	28.4
16．保育中の掃除・片づけ	314	25.2
15．降園（所）時の保護者対応	280	22.5
13．連絡帳の記入など記録	274	22.0
８．午睡の援助	236	19.0
３．登園（所）時の保護者対応	229	18.4
11．清潔（沐浴、清拭等）面の援助	200	16.1
14．降園（所）時の子ども対応	193	15.5
５．午後の遊び	116	9.3
18．その他	116	9.3
17．降園（所）後の掃除・片づけ	96	7.7
12．延長保育への引き継ぎ	91	7.3
７．おやつの援助	63	5.1
１．登園（所）前の掃除・片づけ	45	3.6

（5）保育者の数が多いことの影響

「2歳児の保育者の数が今より多くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか。」として、子どもに関する内容の 15 項目、保育士に関する内容の 20 項目について、「今よりも以下の文のようになると思われる」、「今と変わらないと思われる」、「むしろ以下の文とは逆の結果となると思われる」の3つから選んでもらった。

①子どもに対する影響

表3－2－5は、子どもに関する内容の 15 項目に対して、各選択肢が選ばれた割合を示したものである。選択肢が3つなので、ランダムに答えた場合は 33.3%になる。そこでこの値を期待値として、期待値と実測値との差の検定を行ったところ、すべての項目で有意差があった。特定の選択肢とそれ以外に分けて、同様の検定を行い、期待値よりも有意に大きな値はフォントを大きくし、有意に小さな値はフォントを小さくした。

「文のようになる」だけが有意に多かった項目は、「食事を楽しむことができる」、「清潔を保つ行動が増える」、「身体的活動がしやすい」「聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える」、「情緒が安定する」、「子どものかみつきが少なくなる」の6項目であった。「逆の結果となる」だけが有意に多かった項目は、「怪我が多くなる」の1項目であった。これら7項目については、保育者の数が今より多いことが子どもにとってプラス面に大きな影響を与えると考えられる。

一方、「変わらない」だけが有意に多かった項目は、「子どもがつかれにくくなる」と「子ども同士の関わりが多くなる」の2項目であった。これらの項目は保育者の数が多さに影響を受けにくい項目であるといえる。

表3－2－5　保育者の数が今より多くなることの子どもの行動に対する影響（%）

子どもについて	文のようになる	変わらない	逆の結果となる
1. 食事を楽しむことができる	64.3	34.4	1.3
2. 睡眠など適切な休息をとれる	45.6	53.2	1.2
3. 清潔を保つ行動が増える	68.8	30.7	0.5
4. 身体的活動がしやすい	68.8	30.1	1.1
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	67.6	31.5	0.9
6. 言葉（喃語を含む）を発しやすくなる	57.0	42.2	0.8
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	55.0	44.1	0.9
8. 情緒が安定する	73.9	24.8	1.3
9. 機嫌がよくなる	53.7	45.2	1.0
10. 集中して遊ぶようになる	43.9	53.1	3.0
11. 怪我が多くなる	3.7	25.1	71.3
12. 子どもが疲れにくくなる	12.2	82.0	5.9
13. 子ども同士のかかわりが多くなる	26.1	59.6	14.3
14. 子どものかみつきが少なくなる	65.4	31.2	3.4
15. 保育士への関わりを多く求める	51.9	42.2	5.8

②保育士に対する影響

表３－２－６は、保育士に関する内容の 20 項目に対して、各選択肢が選ばれた割合を示したものである。表３－２－５と同様の分析を行った。すなわち、ランダムに答えた場合の値（33.3%）を期待値として、期待値と実測値との差の検定を行ったところ、すべての項目で有意差があった。そこで特定の選択肢とそれ以外に分けて、同様の検定を行い、期待値よりも有意に大きな値はフォントを大きくし、有意に小さな値はフォントを小さくした。

「文のようになる」だけが有意に多かった項目は、「健康状態の把握がしやすい」、「スキンシップをとりやすい」、「排泄の援助がしやすい」、「食事の援助がしやすい」、「睡眠の援助がしやすい」、「清潔の援助がしやすい」、「着脱の援助がしやすい」、「遊びの援助がしやすい」、「玩具・遊具など物的環境を管理しやすい」、「安全管理をしやすい」、「保育の準備がしやすい」の 11 項目であった。先に述べた「忙しい活動」や「保育士不足を感じる活動」の上位項目がすべて含まれている。保育者の数が今より増えることで、忙しさや保育士不足が緩和されるといえる。

一方、「変わらない」だけが有意に多かった項目は、「保育士同士の会話がしやすい」と「温度湿度の管理がしやすい」の２項目であった。これらの項目は保育者の数が多さに影響を受けにくい項目であるといえる。

表３－２－６　保育者の数が今より多くなることの保育士の行動に対する影響（%）

保育士について	文のようになる	変わらない	逆の結果となる
1. 健康状態の把握がしやすい	71.9	25.7	2.5
2. スキンシップをとりやすい	81.9	16.3	1.8
3. 排泄の援助がしやすい	83.5	15.8	0.8
4. 食事の援助がしやすい	84.3	14.8	0.9
5. 睡眠の援助がしやすい	75.4	23.3	1.3
6. 清潔の援助がしやすい	80.9	18.5	0.6
7. 着脱の援助がしやすい	84.4	14.5	1.1
8. 遊びの援助がしやすい	79.8	19.3	0.9
9. 言葉かけがしやすい	61.0	37.0	1.9
10. 保育士同士の会話がしやすい	23.5	66.4	10.1
11. 温度湿度の管理がしやすい	29.0	69.9	1.0
12. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	66.7	32.3	0.9
13. 安全管理をしやすい	81.4	17.6	1.0
14. 保育士のストレスがたまらない	35.7	56.3	8.0
15. 保育士が疲れにくくなる	46.4	49.5	4.1
16. 保育士の口調が柔らかくなる	38.0	60.3	1.7
17. 保護者への対応がしやすい	60.6	36.5	2.9
18. 保育の準備がしやすい	85.5	13.6	0.9
19. 指導計画の立案がしやすい	43.7	53.7	2.6
20. 子育て支援の業務がしやすい	61.2	38.0	0.8

（6）保育者の数が少ないことの影響

「2歳児の保育者の数が今より少なくなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか。」として、先と同じ子どもに関する内容の 15 項目、保育士に関する内容の 20 項目について、「今よりも以下の文のようになると思われる」、「今と変わらないと思われる」、「むしろ以下の文とは逆の結果となると思われる」の3つから選んでもらった。

①子どもに対する影響

表3－2－7は、子どもに関する内容の 15 項目に対して、各選択肢が選ばれた割合を示したものである。同様の分析を行い、期待値と実測値との差をフォントの大きさで示した。

「文のようになる」だけが有意に多かった項目は、「怪我が多くなる」と「保育士へのかかわりを多く求める」の2項目であった。子どもの怪我の多さは、保育者の数に大きく関係するといえる。「保育士へのかかわりを多く求める」は、「保育者の数が今より多くなった場合」も「文のようになる」が有意に多かった。保育者の数の多少に関わらず、子どもは新しい場面で保育士へのかかわりを多く求めるのかもしれない。

「逆の結果となる」だけが有意に多かった項目は「食事を楽しむことができる」、「睡眠など適切な休息がとれる」、「清潔を保つ行動が増える」、「身体的活動がしやすい」、「聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える」、「情緒が安定する」、「機嫌が良くなる」、「子どものかみつきが少なくなる」の8項目であった。これら8項目については、保育者の数が今より少ないことが子どもにとってマイナスの影響を与えると考えられる。

「変わらない」だけが有意に多く選ばれた項目はなかった。

表3－2－7　保育者の数が今より少なくなることの子どもの行動に対する影響（%）

子どもについて	文のようになる	変わらない	逆の結果となる
1. 食事を楽しむことができる	1.2	25.1	73.7
2. 睡眠など適切な休息をとれる	1.2	35.3	63.5
3. 清潔を保つ行動が増える	1.4	22.2	76.4
4. 身体的活動がしやすい	1.6	21.5	76.9
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	1.8	28.7	69.6
6. 言葉（喃語を含む）を発しやすくなる	1.3	39.4	59.2
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	2.1	45.3	52.6
8. 情緒が安定する	1.5	18.1	80.4
9. 機嫌がよくなる	1.2	29.6	69.2
10. 集中して遊ぶようになる	2.6	41.1	56.3
11. 怪我が多くなる	66.3	15.2	18.5
12. 子どもが疲れにくくなる	5.8	59.0	35.2
13. 子ども同士のかかわりが多くなる	16.4	51.6	32.0
14. 子どものかみつきが少なくなる	7.6	22.6	69.8
15. 保育士への関わりを多く求める	41.6	31.0	27.4

②保育士に対する影響

表３－２－８は、保育士に関する内容の20項目に対して、各選択肢が選ばれた割合を示したものである。同様の分析を行い、期待値と実測値との差をフォントの大きさで示した。

「文のようになる」だけが有意に多かった項目はなかった。

「逆の結果となる」だけが有意に多かった項目は、「健康状態の把握がしやすい」、「スキンシップをとりやすい」、「排泄の援助がしやすい」、「食事の援助がしやすい」、「睡眠の援助がしやすい」、「清潔の援助がしやすい」、「着脱の援助がしやすい」、「遊びの援助がしやすい」、「言葉かけがしやすい」、「玩具・遊具など物的環境を管理しやすい」、「安全管理をしやすい」、「保育士のストレスがたまらない」、「保育士が疲れにくくなる」、「保護者への対応がしやすい」、「保育の準備がしやすい」、「子育て支援の業務がしやすい」の16項目であった。保育者の数が今より少なくなることは、保育士の行動に多大な影響を与え、多くの業務に差し障りが出るといえる。

表３－２－８　保育者の数が今より少なくなることの保育士の行動に対する影響（%）

保育士について	文のようになる	変わらない	逆の結果となる
1. 健康状態の把握がしやすい	2.9	19.8	77.3
2. スキンシップをとりやすい	2.8	15.0	82.2
3. 排泄の援助がしやすい	1.5	9.5	89.0
4. 食事の援助がしやすい	1.5	8.0	90.4
5. 睡眠の援助がしやすい	1.5	15.3	83.2
6. 清潔の援助がしやすい	1.5	12.0	86.4
7. 着脱の援助がしやすい	1.8	8.6	89.6
8. 遊びの援助がしやすい	1.6	12.8	85.6
9. 言葉かけがしやすい	2.3	27.0	70.6
10. 保育士同士の会話がしやすい	5.9	49.5	44.6
11. 温度湿度の管理がしやすい	1.0	54.7	44.3
12. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	1.3	25.9	72.8
13. 安全管理をしやすい	1.6	15.5	82.9
14. 保育士のストレスがたまらない	4.5	32.0	63.5
15. 保育士が疲れにくくなる	4.2	25.3	70.5
16. 保育士の口調が柔らかくなる	2.0	37.6	60.3
17. 保護者への対応がしやすい	2.3	25.2	72.5
18. 保育の準備がしやすい	1.8	13.4	84.8
19. 指導計画の立案がしやすい	2.6	39.2	58.1
20. 子育て支援の業務がしやすい	1.9	27.6	70.5

（7）２歳児担当保育者の適性人数

①調査時現在

「２歳児担当の保育者の人数について、あなたはどのようにお考えですか。」として、「今の人数がちょうどよい」、「今より多いほうがよい」、「今より少ない方がよい」の３つのうち１つを選んでもらった。その結果、「今の人数がちょうどよい」は 69.3%、「今より多いほうがよい」は 27.2%、「今より少ない方がよい」は 1.2%であった（この他に無回答が 2.4%）。７割近い保育士が「今の人数がちょうどよい」を選んでいた。

「今より多い方がよい」を選んだ者に、「具体的にどれぐらい多いほうがいいですか。」として、「今　　人のところあと　　人」と人数を書いてもらった。その結果を示したものが表３－２－９である。平均値を見ると、今、３人程度のところ、あと１人多い方がいいと答えていた。

②４月頃

調査時は 12 月くらいであり、２歳児クラスの子どもの多くは３歳になっている。これに対して４月頃の時点では３歳になっている子どもはほとんどいない。同じ子どもにかかわるにしても、２歳の頃の子どもは半年間で大きく変わる。そこで、「４月頃の２歳児担当の保育者の人数について、今（調査時）と比べてあなたはどのようにお考えですか。」として、「今の人数がちょうどよい」、「今より多いほうがよい」、「今より少ないほうがよい」の３つのうち１つを選んでもらった。その結果、「今の人数がちょうどよい」は 48.7%、「今より多いほうがよい」は 48.5%、「今より少ない方がよい」は 0.8%であった（この他に無回答が 2.0%）。「今の人数がちょうどよい」と「今より多い方がよい」がほぼ同じ程度であった。

「今より多い方がよい」を選んだ者に、「具体的にどれぐらい多いほうがいいですか。」として、「今　　人のところあと　　人」と人数を書いてもらった。その結果を示したものが表３－２－10 である。平均値を見ると、今、３人程度のところ、あと１人から２人多い方がいいと答えていた。４月にはあと１～２人、保育士が多い方がいいといえる。

③調査時現在と４月の比較

「保育士の人数についてあなたはどのようにお考えですか」という２つの設問に対する回答に対して３×３の χ^2 検定を行ったところ、有意差があり、「今より多いほうがよい」は４月頃のほうが、「今の人数がちょうどよい」は調査時現在のほうが多かった。

表３－２－９　今の保育者の数と欲しい人数

	n	平均	標準偏差	最小値	最大値
今	502	3.0	1.8	0.5	16
あと	500	1.3	1.0	0.5	11

表３－２－10　４月の時点で欲しい人数

	n	平均	標準偏差	最小値	最大値
今	895	3.0	1.7	0.5	31
あと	905	1.4	1.0	0.5	8

3．１歳児クラスと２歳児クラスを担当する保育士による回答の比較

（１）業務について

「あなたは、園内の業務のうち、次の事項にどのくらい時間をかけていますか」と尋ねて、時間数を書いてもらった。その平均値、標準偏差、回答者数、t-検定の結果を示したものが表３－３－１である。平均や標準偏差などの数値は表３－１－２や表３－２－２の再掲である。業務にかける時間に有意な差はなかった。

表３－３－１　１歳児と２歳児担当保育士が業務にかける時間

業務	年齢	平均値	標準偏差	n	t-検定結果
１日のうち					
保育の準備（教材準備や環境構成など）	１歳児	0.78	0.56	1622	1.78 ns
	２歳児	0.81	0.60	1667	
記録	１歳児	0.89	0.47	1800	-1.94 ns
	２歳児	0.86	0.47	1780	
指導計画（日案など）の立案	１歳児	0.71	0.63	1429	1.04 ns
	２歳児	0.73	0.69	1463	
掃除などの環境整備	１歳児	0.77	0.43	1771	-1.90 ns
	２歳児	0.74	0.42	1785	
１週間のうち					
特定のテーマに基づく会議	１歳児	1.13	0.82	1220	0.88 ns
	２歳児	1.16	0.91	1262	
担当クラスでの会議	１歳児	1.29	1.22	1403	0.96 ns
	２歳児	1.33	1.25	1398	
園全体での会議	１歳児	1.40	1.01	1395	-0.77 ns
	２歳児	1.37	0.92	1477	

（2）忙しい活動

「1日のうちで、あなたが特に「忙しい」と感じる活動はどれですか。3つ選んでください。」と尋ねた。指定通り3つが選ばれている票だけを分析対象とした。分析票数は1659票であった。表3－3－2は、1歳児と2歳児の担当保育士が忙しいと判断した活動の被選択率（%）を示したものである（数値は表3－1－3と2－3を再掲）。2×2のχ2乗検定を行い、有意差があったところには、差の方向も示した。

登園時や降園時の対応は、2歳児担当の保育士の方が1歳児担当の保育士よりも、忙しい活動として選んだ割合が高かった。また午前の遊び、午睡の援助、延長保育への引き継ぎ、連絡帳の記入など記録も同様に、2歳児担当の保育士の方が1歳児担当の保育士よりも、忙しい活動として選んだ割合が高かった。これに対して、食事（授乳を含む）の援助、おやつの援助、排泄の援助、清潔（沐浴、清拭等）面の援助では、1歳児担当の保育士の方が2歳児担当の保育士よりも、忙しい活動として選んだ割合が高かった。

これらの結果は、1歳児と2歳児では関わり方がまったく違うことを示唆している。子どもの活動量の違いが、保育士の忙しさに反映されていると推測できる。

表3－3－2　1歳児と2歳児の忙しい活動の比較（被選択率：%）

	1歳児	2歳児	検定結果
1．登園（所）前の掃除・片づけ	1.8	1.9	
2．登園（所）時の子ども対応	16.8	24.7	** 2＞1
3．登園（所）時の保護者対応	8.1	10.8	** 2＞1
4．午前の遊び	11.0	14.2	** 2＞1
5．午後の遊び	2.7	2.5	
6．食事（授乳を含む）の援助	75.6	58.5	** 1＞2
7．おやつの援助	4.6	2.2	** 1＞2
8．午睡の援助	9.6	12.3	* 2＞1
9．排泄の援助	56.1	38.0	** 1＞2
10．着脱の援助	38.1	41.0	
11．清潔（沐浴、清拭等）面の援助	9.7	6.8	** 1＞2
12．延長保育への引き継ぎ	2.6	4.2	* 2＞1
13．連絡帳の記入など記録	22.1	30.8	** 2＞1
14．降園（所）時の子ども対応	6.2	7.8	
15．降園（所）時の保護者対応	10.7	15.9	** 2＞1
16．保育中の掃除・片づけ	18.4	21.0	
17．降園（所）後の掃除・片づけ	1.5	2.4	
18．その他	4.5	5.2	

「2＞1」は2歳児＞1歳児、「1＞2」は1歳児＞2歳児を示す

（3）保育士不足を感じる活動

「あなたが、保育者がもっと多いほうがよいと感じる活動はありますか。」の問いに対して「はい」と答えた保育士に、「そのように感じる活動のすべてに○をつけてください（複数回答可）。」として、表３－３－２と同じ活動を示した。各活動が選ばれた割合を示したものが表３－３－３である（数値は表３－１－４と２－４を再掲）。２×２のχ２乗検定を行い、有意差があったところには、差の方向も示した。

２歳児担当の保育士の方が１歳児担当の保育士よりも、保育士不足を感じる活動は、登園時や降園時の対応、連絡帳の記入などの記録、降園後の掃除・片付け、その他であった。これに対して、１歳児担当の保育士の方が２歳児担当の保育士よりも、保育士不足を感じる活動は、主に援助にかかわる活動であった。

これらの違いは、１歳児と２歳児の発達の違いによるものであろう。１歳児の方が援助するかかわりが多いことは当然である。そのため援助場面で保育士不足を感じることが多いのであろう。

表３－３－３　１歳児担当保育士と２歳児担当保育士が保育士不足を感じる活動

	１歳児	２歳児	検定結果
１．登園（所）前の掃除・片づけ	3.5	3.6	
２．登園（所）時の子ども対応	24.1	28.4	* ２＞１
３．登園（所）時の保護者対応	14.7	18.4	* ２＞１
４．午前の遊び	29.6	28.6	
５．午後の遊び	14.1	9.3	** １＞２
６．食事（授乳を含む）の援助	68.7	51.2	** １＞２
７．おやつの援助	9.7	5.1	** １＞２
８．午睡の援助	18.9	19.0	
９．排泄の援助	52.9	37.8	** １＞２
10．着脱の援助	45.0	38.9	** １＞２
11．清潔（沐浴、清拭等）面の援助	19.7	16.1	* １＞２
12．延長保育への引き継ぎ	6.9	7.3	
13．連絡帳の記入など記録	16.8	22.0	** ２＞１
14．降園（所）時の子ども対応	15.0	15.5	
15．降園（所）時の保護者対応	17.0	22.5	** ２＞１
16．保育中の掃除・片づけ	26.9	25.2	
17．降園（所）後の掃除・片づけ	5.2	7.7	** ２＞１
18．その他	6.3	9.3	** ２＞１

「２＞１」は２歳児＞１歳児、「１＞２」は１歳児＞２歳児を示す

（4）保育者の数が多いことの影響

「保育者の数が今より多くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか。」として、子どもに関する内容の15項目、保育士に関する内容の20項目について、「今よりも以下の文のようになると思われる」、「今と変わらないと思われる」、「むしろ以下の文とは逆の結果となると思われる」の3つから選んでもらった。

①子どもに対する影響

子どもに関する内容の15項目について、1歳児と2歳児の担当保育士が選んだ割合に対して、2（担当）×3（選択肢）のχ2乗検定を行い、有意であった項目だけを下位検定の結果と共に示したものが表3－3－4である（数値は表3－1－5や2－5の再掲）。

1項目（13）を除くすべての項目で、1歳児の方が2歳児よりも、「文のようになる」が有意に多く、「変わらない」が有意に少なかった。保育士の数が多くなることの子どもの行動への影響は2歳児よりも1歳児において顕著であると保育士はとらえているといえる。

表3－3－4　保育者の数が今より多くなることの子どもの行動に対する判断（%）

子どもについて		文のようになる	変わらない	逆の結果となる
1. 食事を楽しむことができる	1歳児	73.9	24.8	1.3
		＜	＞	
	2歳児	64.3	34.4	1.3
4. 身体的活動がしやすい	1歳児	74.3	24.4	1.3
		＜	＞	
	2歳児	68.8	30.1	1.1
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	1歳児	73.6	25.5	0.9
		＜	＞	
	2歳児	67.6	31.5	0.9
8. 情緒が安定する	1歳児	77.8	20.4	1.8
		＜	＞	
	2歳児	73.9	24.8	1.3
9. 機嫌がよくなる	1歳児	58.4	40.3	1.2
		＜	＞	
	2歳児	53.7	45.2	1.0
10. 集中して遊ぶようになる	1歳児	49.8	47.4	2.8
		＜	＞	
	2歳児	43.9	53.1	3.0
12. 子どもが疲れにくくなる	1歳児	14.9	78.2	6.9
		＜	＞	
	2歳児	12.2	82.0	5.9
13. 子ども同士のかかわりが多くなる	1歳児	28.4	60.1	11.5
				＞
	2歳児	26.1	59.6	14.3
14. 子どものかみつきが少なくなる	1歳児	70.8	25.7	3.5
		＜	＞	
	2歳児	65.4	31.2	3.4

②保育士に対する影響

保育士に関する内容の 20 項目につして、1歳児と2歳児の担当保育士が選んだ割合に対して、2（担当）×3（選択肢）のχ2乗検定を行い、有意であった項目だけを下位検定の結果と共に示したものが表3－3－5である（数値は表3－1－6や2－6の再掲）。

1項目（6）を除くすべての項目で、1歳児の方が2歳児よりも、「文のようになる」が有意に多く、「変わらない」が有意に少なかった。「6. 清潔の援助がしやすい」でも、1歳児の方が2歳児よりも、「文のようになる」は多い傾向があり、「変わらない」は有意に少なかった。保育士の数が多くなることの保育士の行動への影響も、2歳児より1歳児において顕著であると保育士はとらえているといえる。

表3－3－5　保育者の数が今より多くなることの保育士の行動に対する判断（%）

保育士について		文のようになる	変わらない	逆の結果となる
3. 排泄の援助がしやすい	1歳児	89.8	8.7	1.4
		∨	∧	
	2歳児	83.5	15.8	0.8
4. 食事の援助がしやすい	1歳児	91.0	7.6	1.4
		∨	∧	
	2歳児	84.3	14.8	0.9
6. 清潔の援助がしやすい	1歳児	83.3	15.7	1.0
			∧	
	2歳児	80.9	18.5	0.6
7. 着脱の援助がしやすい	1歳児	88.4	10.4	1.3
		∨	∧	
	2歳児	84.4	14.5	1.1
8. 遊びの援助がしやすい	1歳児	83.9	14.8	1.3
		∨	∧	
	2歳児	79.8	19.3	0.9
14. 保育士のストレスがたまらない	1歳児	40.1	52.5	7.3
		∨	∧	
	2歳児	35.7	56.3	8.0
15. 保育士が疲れにくくなる	1歳児	51.0	45.4	3.7
		∨	∧	
	2歳児	46.4	49.5	4.1
16. 保育士の口調が柔らかくなる	1歳児	42.1	56.6	1.3
		∨	∧	
	2歳児	38.0	60.3	1.7